

2004年6月1日

発行 三重県立小児心療センター こども あすなろ学園 広報担当  
〒514-0818 三重県津市城山1-12-3 TEL.059-234-8700 FAX. 059-234-9361

## 懐かしい便り

園長 西田 寿美

時々、昔関わった人たちから電話がかかってくる  
ことがある。先日も「西田先生、〇〇ですが覚えて  
いますか。娘がお世話になりました。もう  
24歳になります。名古屋で生活しているんですが、  
休みに帰ってくるので一度会いたいと言ってい  
ます。お時間ないですか。」と電話があった。最  
近、記憶力の衰えに恐怖感を感じている当方とし  
ては、「ああ、お元気ですか。どうしていますか。」  
と聞き返すだけである。近況を伺っているうちに  
懐かしい過去の記憶がもどってくる場合もある  
し、もどらないまま終わって、急いでカルテを引  
き出して読み返して見ることもある。最近は後者  
のほうが圧倒的に多いが、カルテの端々からは過  
去の記憶がまたよみがえってくる。

中学1年のころ受診されたお嬢さんであった。  
お兄さんが自閉症で長く関わっていたご家族で  
もあった。初診の時、ふてくされた様な表情で何  
を聞いても「べつに」と取り付く島もなかった。  
「笑うと、きっとかわいい子だろうな」と思った  
が、何回かお会いしても表情は変わらなかった。  
そのうちお母さんだけになった。「あんなところ行  
っても仕方ない」と拒否されたのである。仕方な  
いのでお母さんとだけ何回かお会いした。アパー  
トで一人住まいをして学校に通っている友達が

いて、お母さんとけんかになった後、今で言う「ブ  
チ家出」となり、その友達の家に転がり込んだと  
のことであった。しかし、その友達のアパートか  
らは元気に通学をはじめ、しばらくして家に帰っ  
てきたが、すぐ不登校はぶり返し、昼夜逆転生活  
にもどってしまったとのこと。その後、数回の受  
診記録でカルテは終わっていた。

不登校の治療に携わるとき、いかに子ども自身  
の意思に気づき、子どもの決断を引き出すかが大  
切になると考えている。学校に行かないのも子ど  
もの意思と決断と理解できると焦らずに待てる  
ものである。しかし、親御さんはそうもいかない  
ようで焦られる。待つことの大切さを伝えるのと、  
親であるが故の不安を軽減するお手伝いを心が  
けている。そうは言っても、子どもの社会性の弱  
さが顕著な場合は待つだけでは心配になる。いか  
に人と会わせるか、人と心通わせる体験をさせる  
か心砕く治療が始まる。長時間自室だけの生活に  
なっているような不登校の子どもたちは本当に  
心配になる。夜になったら「ゲオ」や「コンビニ」  
に出かけ、友達にも会える不登校の子どもたちは  
あまり多くない。いずれ自分なりに社会との接点  
を見つけていけるように思う。

近年は、教育委員会の適応指導教室が各地にあ  
り、フリースクールも増えてきた。そういう場に  
参加していろいろな大人と出会い、友達をつくり、  
引きこもりから脱していく子どもたちがたくさ  
んいる。安心できることである。